
夏休み最終日のいいわけ

N澤巧 T 郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏休み最終日のいいわけ

【Nコード】

N2550A

【作者名】

N澤巧二郎

【あらすじ】

今日は夏休み最終日。まだ山積みの宿題を見て…。

「明日で夏休みもおしまいかー。」

「だったらその宿題の山を何とかしなさい。」

「うえー。」

「やってないあんたが悪い。」

「もういいよやんなくても。てかなんで夏休みの宿題をやらなきゃいけないんだよ。」

「何言つてんのこの子は。宿題はやるもんなの。わかったらさっさとしなさい。」

「だってさあ、いつも出される宿題はやらなくてもいいのになんで夏休みの宿題はダメなの？」

「いつも出される宿題もやんないといけないんだよー！」

「ふーん。そうだったんだ。」

「ああ、お母さん頭が痛くなってきたよ。」

「タンスの角にでもぶつけた？」

「タンスにぶつけるのは小指でしょ。それに痛くなったのはあんたのせいよあんたの。」

「それに最終日に必死こいてやるなんてめんどくさいよ。どうせ出来なくても明日までにやってくることなんて言われておしまいだよ。」

「結局やんなきゃいけないんだから今やつちやいなさい。」

「チツチツチ。甘いよトミコ。ビターチョコより甘いよ。」

「下の名前で呼ばないの。それにビターチョコよりはだいたいのモノ甘いから。」

「明日まで明日までずっとしなければそのうち先生だってあきらめるさ。」

「そんなことやってたら成績がたいへんなことになるよ。」

「別に小学校の時の成績なんて盲腸みたいなものだよ。あってない

ようなもんさ。」

「のちのち痛くなつて来るけどね。」

「うまいなあトミーは。今のコメント。3倍くらい薄めた牛乳よりうまいよ。」

「トミー言わない。それに牛乳を薄めたモノほど不味いものはないから。」

「それに盲腸にならない人だっているんだから。宿題は中学になつてからするさ。」

「今やれない人が将来できるはずないでしょ。」

「それはどうかな。生まれたとき、言葉をしゃべれる人なんていたかい？生まれた瞬間に相対性理論を理解している人がいたというのかい？そうさ、すべての人間が生まれたときは無の状態なんだよ。それが今はどうだい。こないいいわけも考えることが出来るまでに成長したんだよ。嬉しいじゃないか。さあ、感動の涙を流してもいいんだよ。僕の胸でたあんとお泣き。」

「情けなくて涙が出てくるよ。」

「花粉かな？」

「あんただよあんた。」

「そうさ、そのことを考えれば人間に出来ないことなんて何もないのさ。人には無限の可能性が広がっているんだよ。つか持っているのだよ。そう、バンダイ。君にだってあるんだよ。」

「トミーって呼ぶなつて言っただけバンダイはないでしょバンダイは。」

「だからその可能性を十分にこの宿題に発揮してくれ。さあ、今こそ鍵と言う名のシャーペンを握り、未来の扉をこじ開けるのだ！！」

「それをやるのはあんただあんた！！」
「怖がることはない。いつもそばで見守つてあげるよ。ゲームをしながら。」

「全然見守つてないから。ゲームばっか見てるから。」

「未来はきみの味方だ。恐れるな。たとえ僕がゲームに集中しきつ

ていても。たとえ昨日までの天気がわからなくても、今まで頑張ってきた自分が見守ってくれてるんだ。さあ、ためらうことなんてないはずだ。勇気と言う名のシャーペンを手にとって未来を切り開け。

「

「絵日記もやってなかったの！？うわっ！！見事に真っ白・・・。」

「そう、真っ白に燃え尽きたんだよ。」

「なんにもしてないのに燃え尽きてんじゃないよ。」

「ふっ、安心したまえ。ちゃんと夏休みの思い出ならマイメモリーに大事に大事に保存してあるさ。」

「だったら速く書きなさいって。生命の危機を感じるまで書きなさい。」

「しかしそれは出来ないのだよ山本トミコ。俺は過去を振り返らない男だから。」

「旧姓を言うな旧姓を。それに大事に保存してても見なきゃ意味ないでしょ見なきゃ。」

「そうだな。振り返るとき、それは俺が傷ついたとき。その傷を癒すために思い出と言う名の包帯で傷を優しく包みこむだろうね。」

「それじゃあ、たったいま傷だらけにしてあげてもいいんだよね！？」

「おつと良い子は寝る時間だ。」

「まだ8時じゃん！！いつも11時くらいまで起きてるでしょ？」

「それは悪い子だったからだよ。たった今から僕は良い子になりました。」

「良い子なら宿題してよ。」

「それじゃあお休みなさいませ。お母様。」

「いつからブルジョワになったんだか。チョットお父さん。お父さんからもなんか言ってやってよ。」

「まかせなさい！！」

「おつ、これは期待できる。」

「ヘイ、マイサン！！」

「なんで英語で呼ぶ？」

「歯、みがけよ。」

「だめだこりゃ。」

次の日、しっかりと廊下に立たされたとき。

そしていま、

彼は世界の舞台に立っている。

（後書き）

トミーの子供だからタカラって名前かもしれないね。
タイトーかも。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2550a/>

夏休み最終日のいいわけ

2010年12月13日22時34分発行